



本通信は、当センターへの相談ケースや、皆様に知っていただきたいことなど、様々な内容について掲載しています。



2023年
冬号

北海道立向陽ヶ丘病院

認知症疾患 医療センター

☎ 093-0084

北海道網走市
向陽ヶ丘1丁目5番1号

TEL/FAX(直通)

0152-44-0500



お問い合わせ、ご相談
等の際は、上記までお
電話をお願いします。



Dementia Disease Medical Center

DDMC communication

北海道立向陽ヶ丘病院 認知症疾患医療センター通信



研修会開催のご報告

令和5年11月17日(金)、「薬が必要な状況とは～認知症における不穏に対する薬の使い方について～」と題し、当院中島薬剤師を講師に認知症の方を支援する医療介護等関係者を対象とした研修会を開催しました。

当日は30名を超える参加があり、講師から、周辺症状、不穏、せん妄はどのような状態のことをいうのか、頓服薬を使うと何が期待できるのか、薬を飲むタイミングはいつが良いのか、飲ませた後に何を気にしておくべきか等、より実践的内容の説明がありました。

講演後のアンケートでは、「とてもためになった」等高い評価をいただきました。今後もより日々の実践に活用できる内容の研修会を開催したいと考えております。



今回のテーマは、「**難聴**」です。

知的な能力と、高齢になると多くの方々が経験する「難聴」との関係を取り上げます。

国立長寿医療研究センターで行ったNILS-LSA

老化疫学研究部
Department of Epidemiology of Aging

(老化に関する長期縦断疫学研究)によれば、

70歳代男性で5人に1人、女性で10人に1人が日常生活に支障のある難聴者であり、難聴は高齢者にとって、とても身近な問題と言えます。

難聴は高齢者の生活にどのような影響をもたらすのでしょうか。難聴になるとコミュニケーションが苦手になったり、町内のお付き合いがおっくうになったり、外出を控えているうちにそれらへの意欲が低下したり、とさまざまなマイナスの影響があると考えられます。

同研究では、**年を重ねても維持されやすい知的な能力である「知識力」が、難聴がある場合には低下する傾向があることが分かっています。**

身体の機能は、使わないでいると衰えが進みます。同様に、知的な能力も十分に使わずに過ごすとなんげと衰えていくことが知られています。難聴によって外界から入ってくる情報が少なくなることで知的な能力を使う機会が減り、そのために知的な能力が低下している可能性が推察されるそうです。

聴力については、補聴器などを活用すれば知的な能力の衰えをゆるやかにすることができるという研究結果が報告されています。しかし、この説には反論もあり、補聴器が難聴者の認知機能維持に役立つのかどうか、日本も含め、世界中で精力的な研究が行われているようです。

国立開発研究法人 国立長寿医療研究センターホームページより

